

平成 18 年 3 月

試験研究業務月報



消毒中の施設圃場と蒸気発生機

蒸気散水法の現地実証試験を実施

府内の施設圃場では、連作に伴う土壌養分の過剰集積と土壌病害の発生が問題となっています。蒸気散水法は、蒸気消毒後の土壌に散水することにより土壌深部の昇温効果を得る消毒方法で、養分集積と土壌病害を同時に浄化改善することができる化学農薬に頼らない環境保全的な技術として注目されています。

加茂町のハウス圃場でも、トウガラシ疫病と過剰施肥により生産性が低下しているため、この技術の現地実証試験を実施しました。今後は、土壌分析を行うことにより養分除去効果や無機態窒素の経時的な発現量を調査するとともに、トウガラシ疫病に対する消毒効果を確認することとしています。

農業総合研究所